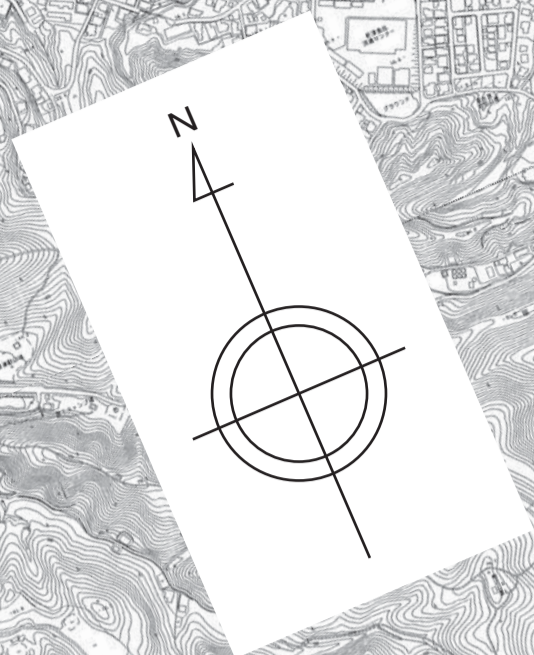


# 信濃川水系 東大通川浸水想定区域図 1:10,000



凡例	
浸水した場合に想定される水深(ランク別)	
	0.5m 未満の区域
	0.5m ~ 1.0m 未満の区域
	1.0m ~ 2.0m 未満の区域
	2.0m ~ 5.0m 未満の区域
	5.0m 以上の区域
	浸水想定区域の対象となる河川の区間

「信濃川水系東大通川浸水想定区域図」

1 説明文

- この浸水想定区域図は、信濃川水系東大通川の洪水氾濫により浸水した場合に想定される水深を示したものです。
- この浸水想定区域図は、現在の東大通川の河道整備状況を勘案して、東大通川の洪水防御に関する計画の基本となる降雨である、概ね30年に1回程度起こる大雨が降ったことにより、東大通川が氾濫した場合に想定される浸水の状況をシミュレーションにより求めたものです。
- このシミュレーションの実施にあたっては、隣接する信濃川、覚路津大通川、大通幹線排水路、小須戸幹線排水路等の氾濫、想定を超える降雨による氾濫、内水による氾濫(雨水が河川に排水できなくなり生じる浸水被害)等を考慮していませんので、この浸水想定区域に指定されていない区域においても浸水が発生する場合や、想定される水深が実際の水深と異なる場合があります。
- なお、当該区域については、隣接する信濃川の氾濫の影響が考えられますので、別途、指定・公表される信濃川水系信濃川浸水想定区域図を参照する必要があります。

2 基本事項等

- 作成主体 新潟県
- 対象となる河川 信濃川水系東大通川(実施区間：信濃川合流点～新潟市秋葉区金津字滝下73-1)
- 対象降雨 東大通川流域の30年確率(洪水到達時間内雨量強度 48.12mm/hr)
- 関係市町村 新潟市
- その他計算条件
  - 氾濫計算は、対象区域を50m格子(計算メッシュという)に分割して、これを一単位として計算しています。
  - メッシュの地盤高は1/2,500都市計画図等から求めた平均地盤高を使用しています。このため、微地形による影響が表せていない場合があります。
  - 連続して大規模に盛土された道路や中小河川の堤防等については氾濫水の広がりを左右することから、計算メッシュにおいて平均地盤高とは別に扱い、その影響を考慮したシミュレーションを行っています。
  - 信濃川の水位が高い状態を想定してシミュレーションを行っています。

新潟県新潟地域振興局 平成20年2月

